

## 平成 30 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 30 年 7 月 17 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・准教授

申 請 者 名 大橋 弘範

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・学会参加) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事 業 名	第 7 回環境放射能除染研究発表会への参加
事業実施期間	平成 30 年 7 月 ~ 平成 30 年 7 月
成 果 の 概 要	<p>7 月 3 日の朝より 4 日の夕方まで、東京都江戸川区のタワーホール船堀にて行われた環境放射能除染学会第 7 回研究発表会に参加した。</p> <p>他の講演者の発表を聞き、現段階での環境放射能対策における最新を学習し、私達の研究成果が劣っていないことを確認した。また、口頭発表（タイトル：再生可能エネルギーの弱点を補う放射性セシウム最終処分システムの提案）とポスター発表（タイトル：土壌や廃棄物中の放射性セシウムの最終処分型への化学的変換の試み）を行い、多くの有益なコメントをいただいた。</p> <p>特に、ポスター発表に関しては、コアタイムが 1 時間であったにもかかわらず、コアタイムより前の時間からポスターボードに人が多く集まった。この状態はコアタイム後も続き、結局 2 時間弱ずっと説明を行う状態であった。口頭発表に関しても難しい質問が続き、本研究が本質的に理解されていることを確認できた。休憩時間に問い合わせが相次ぎ、休憩時間がなくなるハプニングも起きた。</p> <p>総評として、本学会で発表を行って非常に反響が大きかった。研究に関して多くの課題をいただいたので、これを基に、次回の実験を組み立てたいと考えている。</p>